



2018年12月14日 第841号



発行 関西学院大学新聞編集部
 〒662-0891 西宮市上ヶ原1番町1-155
 関西学院大学新学生会館3F
 電話：(0798) 51-1181
 E-mail: kgpress2009@yahoo.co.jp
 HP: http://kgpress2009.wixsite.com/kgpress2015
 Twitter: @kg_shinbun

皆の心を満たした

新月祭2018

新月祭2018が、神戸三田キャンパスでは10月20日と21日、西宮上ヶ原キャンパスでは11月1日から4日、西宮聖和キャンパスでは11月10日と11日に開催された。



プラザステージの様子

今年の新月祭は、8日間で延べ約10万人が来場した。なかでも、11月2日に西宮上ヶ原キャンパスで行われた男性4人組ダンスロックバンド「DISH//」のライブには、約4千人が足を運んだという。今年、ノンジャンルステージ「K.G. AWARD 18」(This is us!)の会場が、

中央講堂からプラザステージに変更された。模擬店が集まる場所で開催したことにより、多くの来場客が足を止めてステージ上のパフォーマンスを楽しんでいたという。関西学院大学新月祭2018実行委員会委員長の堀俊之さん(経・3)は「今年は近年でもまれにみる晴天に恵まれ、すべての実行委員会企画を滞りなく行うことができた」と安堵していた。

また、運営の面でも変化があった。今年、新月祭終了後に「撤収日」が設定されなかった。この影響を受けて、西宮上ヶ原キャンパス4日目の終了時刻は15時に繰り上げられた。実行委員たちは来場客の誘導後、残された時間の中で後片づけに追われた。堀さんは「新月祭が問題なく無事に終わることができたのは、学生団体の皆様や実行委員たちが一致団結して動いたことによるものだと思う。感謝したい」と語っている。こうして新月祭2018は、すべての日程が終了した。だがその裏には、実行委員会をはじめとした、多くの人々の努力があったというのを忘れてはならない。「実行委



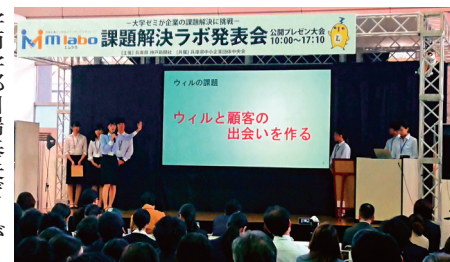
多くの来場者でにぎわった

「不動産」をもっと身近に ～川端ゼミ「Mラボ」3位入賞～

大学生が企業の課題解決を提案する「Mラボ」課題解決ラボ(神戸新聞社・兵庫県主催)の最終発表会が、10月27日に神戸市中央区のハーバランドで開催された。出場した全20チームのうち、本



会員の仕事には、当然ながら給料が発生しない。それでも、活動を通じて得たやりがいと強い達成感に支えられて、実行委員として今までやり続けることができた」と、堀さんは自身の3年間を振り返る。最後には「強みである3キャンパス間での『つながり』を大事にしなが、来以降も



最終発表の様子

学商学部川端基夫ゼミが3位入賞を果たした。今回は、阪神間を中心に不動産事業を展開する株式会社ウィルの課題解決に取り組み、今年6月から調査研究を進めてきた。ゼミで設定したウィルの課題は「どのようにして顧客との接点を作るか」であった。学生たちは、住宅購入客へのインタビューやアンケート調査などを通じてウィルの

大学全体を巻き込んで新月祭をさらに盛り上げてほしい」と後輩へエールを送った。新月祭2018のキャッチコピーは「月を満たすまで、あなたと」であった。来場客や実行委員会をはじめ、かわったすべての人たちの心を満たす、そんな新月祭になったはずだ。(T・N)

- 1面 KGニュース 新月祭2018を終えて 川端ゼミ研究発表会で入賞
- 2面 速記研究部新人戦 わるど・にじいろまつり
- 3面 日進月歩 「連載」追跡!! SGU
- 4,5面 新月祭2018特集
- 6面 マスターピース 教授の背中 お店探し隊
- 7面 K.G. studio 部室だより K.G. PEOPLE
- 8面 学生連盟財政特集

強みと弱みを洗い出し、議論を重ねていった。ゼミ生の上溝友紘さん(商・3)は「インタビュー調査から、物件を探そうとする顧客はインターネット検索に頼ってしまうことがわかった。そこで、ウィルの提案力豊かな人材との出合いの場を作ることで、顧客の理想を実現しようと考えた」と語る。研究結果は、10分間のプレゼンテーションとして発表された。顧客との接点を生み出すために、店舗の空きスペースを利用したカフェの開設や、顧客の希望に応じて最適な営業担当者を選択できるシステムなどを提案。再現ビデオや手作りの看板も使用して、内容をわかりやすく伝えた。審査員からは「提案の実現可能性」が高く評価されていた。ウィル広報室の岡田洋子さんは「当社の強みをよく捉えた素晴らしい発表だった。当社が最も大切にしている『人』をもっと活かし、強く押し出してよいのだという後押しになっている」と、発表を聞いて感慨深げに語った。

「ありがとうございませう」――映画「万引き家族」の劇中で、樹木希林さんがアドリブで口にした言葉である。この言葉にこめられた彼女の思いとは、今年9月15日、日本を代表する女優であった樹木希林さんが、息を引き取った。享年75歳であった。彼女は2003年1月に網膜剥離で左目を失明。加えて、2013年3月に全身がんに侵されていることを告白。しかしながら、彼女は重い病をものりこみ、亡くなる直前まで女優業を全うした。また、彼女は日本映画界に多大な貢献をしてきた。特に、枝裕和監督とは、深い関わりがあったそう。彼女は、計6作もの是枝

という結果は悔しいが、最終発表までやりきったので今は納得している」と振り返った。学生たちは不動産を購入した経験がなく、今回の研究に取り組み難しさを感じていたという。この研究を通じて、不動産業を身近に感じるようになったのではないだろうか。(T・N)



川端基夫教授と学生たち

作品に出演し、すべての受賞に導いている。彼女の告別式での弔辞で、彼女は「母のようだったあなた、映画の中で最後に口にした言葉が棺の中のあなたに返します」と綴った。彼女は生前に、是枝作品への出演は「万引き家族」が最後になるだろうと語っていた。そして、彼女が劇中で口にした言葉は、役柄の死の間際に放たれたものだった。彼女は、役柄の死と自身の死を重ね合わせ、役柄を超えた彼女自身の思いを込めて「ありがとうございませう」と口にしたのだ。彼女は亡くなった今もなお、多くの作品の中で生き続けている。生きることを愛することの大切さを訴え続けた彼女を、私たちはこれからも忘れない。

Izumi Syuppan
 パンフレット、記念誌、報告書
 制作・編集、デザイン

和泉出版印刷株式会社

【本社】
 〒594-0083 和泉市池上町4丁目2番21号
 TEL: 0725-45-2360(代) FAX: 0725-45-6398
 E-mail: info@izumi-syuppan.co.jp

【大阪営業所】
 〒540-0026 大阪市中央区内本町1-1-6 本町カノヤビル
 TEL: 06-6946-1073(代) FAX: 06-6946-7684

全国大会への足がかりに！

第6回全国学生新人速記競技大会

団体戦2位

10月14日、本学にて第6回全国学生新人速記競技大会が開催された。本学からは、文化総速記研究部（以下、速記部）が出場し、雌雄を決した。この大会は、速記を始め2年未満の部員のみが参加できる新人戦である。

大会では3分間、階級別に指定された文字数の文章が朗読される。まず、選手は読まれた文章を速記文字で記録する。その後、記録した文章を

平仮名、カタカナ、漢字などを的確に用いて文章に起こし直し、その正確さを競うのだ。また、選手は1分間に読まれる文章の文字数が多い順に、A級からG級までの階級に分かれて出場する。最も難しいA級では、1分間に260字もの文章が朗読される。そして、速記では個人戦の成績が団体戦の成績に直結する。階級別順位ごとに点数が与えられ、合計点数で団体

戦の順位が決定するのだ。この大会で、本学速記部は団体戦2位、個人戦ではD級を除く全階級で3位以上の入賞を果たした。うちC、E、G級の3階級では1位を獲得している。大会を振り返って、部長の野口陽子さん（商3）は「全国大会では2年生以下が結果を出すのは難しい。しかし、新人戦は違う。特に2年生には、3年生になる前に自分が頑張ってきたというこ



速記研究部の顔ぶれ

とを目に見える形の成績として残してほしいと思っただけで、目標が達成できたことに対して喜びを見せた。

現在、速記部は毎年12月に開催される、全日本学生速記競技大会を2連覇するなど、波に乗っている。部員は約30名で、新学生会館3階にある

部室で活動中だ。活動日は基本的に平日の5限である。授業やアルバイトなど、各自の都合に合わせて週2回ほど参加している部員が多いそうだ。また、大会前には各自の苦学克服のため、強化練習期間も設けているという。

練習は基本的に1対1で、3年生が指導する形式をとっている。特に今年は、部室に行けばいつでも練習できる環境を整えたという。平日は、3年生の部員が最低1人部室に待機するようにしたそうだ。「いつも練習ばかりではなく、遊びと練習のメリハリをつけて活動している」と野口さんは楽しそうに語ってくれた。

次の大会は、12月にある第



練習中の様子

109回全日本学生速記競技大会である。3連覇のかかる大会に向けて、野口さんは「目標は当然団体戦優勝。去年、一昨年に引き続き、3連覇することだ。そのために、作戦を練って、強化練習も3週間前から行う」と気合十分で話した。

多文化共生の第一歩

わ〜るど・にじいろ・まつり 2018

11月10日に「わ〜るど・にじいろ・まつり2018」が西宮聖和キャンパス2号館のリブラにて行われた。会場では、地域の人々と学生、そして外国にルーツを持つ人々が、イベントのテーマである

多文化共生について、それぞれの形で臨む姿が見られた。

イベントでは、身近な題材を使った参加者とのディスカッションや、在日外国人の講師を招いてのリレートークを行う学習コーナーが設けられた。それに加え、アジアを中心とした各国の民族衣装体験会などの体験コーナーも用意された。外部のステージでは朝鮮やアフリカの歌と踊りが披露され、フェアトレードのコーヒーやハンガリーの伝統的なスープレを販売する模擬店も実施された。なかでもリレートークには講師の体験談から、日本でのように自己アイデンティティを確立していったのか、自己を社会に発信していったのか



会場入口の看板

話された。会場では学生だけでなく、幅広い年齢の人々が話に耳を傾けていた。

今回のイベントの目的について、学習コーナーで企画を行った松山和輝さん（教3）は「まず、学生がリレートークや展示などを通して多文化共生への理解を深めることや、地域の人々が外国の文化に触れるきっかけを作ることが、目的のひとつだ。また、近隣で生活する外国にルーツを持つ子どもたちが、自身の

アイデンティティをオープンにできる居場所を作り出すことも、開催の大きな柱となっている。日常で母国語を話す機会のない子どもたちがイベント内で気軽に母国語を話したり、ステージで披露されている歌や踊りを見て、自身のルーツを披露することに自信を持つ助けになればと思う」と語った。

また、総務をつとめた松崎順平さん（教3）はイベントを振り返って「訪れた外国にルーツを持つ子どもたちから『楽しかった』『面白かった』と声をかけてもらえただけでも、今回開催した意義があった。学生の参加者は予想していたより少なかったものの、模擬店やステージには多くの人々が訪れてくれた。それらを通して、今回イベント



会場には幅広い年齢の人が集まった

の存在を知ってくれた人たちが、次回の開催では参加者として来てもらえるように、今後は周知していきたい」と話した。

今回が初めて新月祭との併催となった「わ〜るど・にじいろ・まつり」は、来年度の開催も計画中だという。参加すれば、授業だけでは見えない身近な多文化共生の姿が見えるはずだ。（H・N）

【お知らせ】

平素より、関西学院大学新聞をご愛読いただき、誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。

さて、836号でもお知らせしたように、今年紙面数を変動させつつ新聞発行をしてきました。理由として部員数や活動資金の不足などが挙げられますが、紙面数が減少したままでは本紙の持つ「学生のための新聞」という意義が損なわれてしまいます。

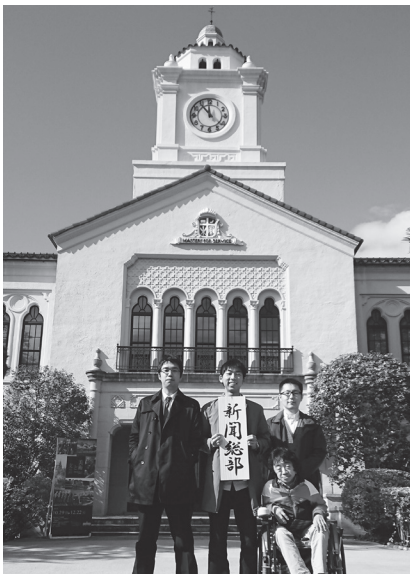
そこで、今後は本紙に加え、新たに「瓦版」を発行します。本紙での掲載を惜しくも逃した記事を生かし、情報の鮮度をより高めることが可能になると考えました。「瓦版」には、本紙で減った紙面数を補う役割を持たせたいです。「瓦版」の初発行時期は未定ではありますが、なるべく早い発行を目指してまいります。今後とも、関西学院大学新聞総部をよろしくお願いたします。

～引退のごあいさつ～

平素より、関西学院大学新聞をご愛読いただきまして、誠にありがとうございます。今号をもちまして、3年生4名が新聞総部を引退いたします。

今年、8面発行にとらわれない多様なスタイルでの発行に挑戦してきました。財政的に厳しい部の存続のためとはいえ、特に紙面数や発行部数を減らすという大きな決断には様々なご批判があったのも事実です。その一方で、紙面の内容にはより一層こだわることができたと自負しています。学生目線という持ち味を大いに生かし、関学生に有益な情報収集と発信に努め、時に大学側や学生連盟の運営体制を批判するような特集も組むことができました。

そして個人的には、事実を文字にして残すことの大切さを痛感した3年間でもありました。新聞という媒体は、紙の形で将来にわたって残ります。いい加減な状態で発行して後から修正する、というわけ



にはいきません。そんな「変更が効かない」ことの醍醐味に、私は知らず知らずのうちに魅せられていたのです。

新聞は、やはり紙で発行するということこそ意義があるのではないのでしょうか。「新聞記事になる」ことの特別さは、日々大量の情報が発信と更新を繰り返すインターネット媒体にはないものだと、私は確信しています。

創部96年という伝統ある新聞総部のバトンは、後輩たちの手に渡ります。後輩たちが創り上げていく今後の新聞総部にも、引き続きご支援の程よろしくお願申し上げます。

最後になりましたが、今までの活動にご理解とご協力いただいた関係者の皆様に対しまして、感謝を申し上げます。3年間、ありがとうございました。

関西学院大学新聞総部
総部長 中村達彦

論説 日進月歩 『日大アメフト』

日本のスポーツ史上、例のない惨劇である。選手が悪質なタックルを行った経緯から日本大の事後対応に至るまで、理解に苦しむ出来事の連続であった。

事の発端は、5月6日に行われた本学と日大のアメフトフットボールの定期戦でのことだ。パスを終え無防備になった本学の選手に、日大の選手が、背後から激しいタックルを浴びせ、倒した。その結果、本学の選手は腰に全治3週間のけがをしたのだ。これはスポーツから離れた暴力行為で、傷害事件といっても過言ではない。

なぜ日大の選手は、こんな反則行為をしたのか。当該選手は、19歳以下の日本代表に選出されたこともあり、また乱暴なプレーを指摘されることもなかった。関東学生連盟は、このタックルが内田正人監督(当時)らの指示によるものだったと認定してい

大学の責任は重い

内田前監督は、独裁的な立ち位置で、選手の自主性と主体性を奪い、肉体的・精神的に追い込む指導方針を採っていた。なかでも当該選手は、前監督から目を付けられ、度を越したプレッシャーをかけられる指導を受けていた。このような指導は、部内で「はまる」と表現され、繰り返し行われていたことも分かっている。選手は、前監督らの常軌を逸した指導を受け、善悪の判断を失うまでに追い詰められた。今回の悪質なプレーは、その結果行われたものだ。指導者におかたの非があり、後に連盟が内田前監督ら2人の指導者を除名としたのも当然である。

前監督が、部内に独裁体制を築き、今回の事件まで放置されたことも極めて重要な問題だ。この大きな原因は、ガバナンスが欠如し形骸化した日大内部の構造にある。日大には、アメフト部などの競技部の上位組織として保健体育審議会(保体審)が置かれている。そして保体審の下部に、事務執行機関として体育局が置かれる。しかし、日大では、保体審は形骸化し、体育局長が実権を掌握し、事務局長が実権を掌握し、保体審を生かすという実態があった。その事務局長に就いていたのが、内田前監督である。そして内田氏は、体育局を含む全ての日大職員の人権を掌握する、人事担当の日大常務理事でもあった。その上で、保体審の下部にある日大アメフト部の監督にも就任していたのだ。コントロールすべき立場にある者とコントロールされる者が同一で、日大アメフト部は制御

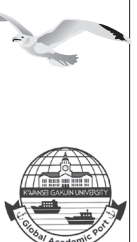
チーム作りは学生主体で

止処分を解かれていない。日大は真に改革するつもりがあるのだろうか。日大の総責任者である田中英寿理事長は、批判の矢面に立つことから逃げ続け、会見は行っていない。トップの姿勢として異様に感じる。側近の理事らが選手に「日大の総力で潰す」と脅迫した責任は、「日大の総力」のトップである田中理事長が取らなければならない。そして抜本的な組織改革を行わなければならない。同じような悲劇は繰り返すだろう。

また、連盟の検証委員会は「学生たちが事態と責任の重大性の認識に至っていないかどうか、残念ながら見えてきていない」と指摘している。現役選手が、出場機会を奪われた被害者であるというところは理解できる。しかし、これは加害選手だけの責任ではない。日大の選手一人一人が、当事者として心から反省すべきだ。

追跡!! SGU 第21回

大学院「国連・外交コース」での学び



の職員に就職するためには、修士以上の学歴と、実務経験、語学力も必要となる。

このコースは、全科目の授業を英語、少人数かつ演習主体で実施し、海外大学院と同等のレベルで開講される。そのため、学生はTOEIC 780点程度の英語力が必要となる。また、海外留学生も在籍しており、国際交流も盛んである。また授業をサポートするのは、国連・外交分野の経験豊かな教員である。日本人初の国連職員で元国連事務次長の明石康SGU招聘客員教授をはじめ、国連・外交の第一線で活躍してきた教員陣が、徹底指導している。

「国連・外交コース」の授業内容は

国連・外交コースでは、日本や他国の国連と外交のアプローチを基に、国際情勢と地球規模で発生している問題について研究する。主な学習内容は、日本と各国との外交政策の比較や国際機関の変遷、SDGs(持続可能な開発目標)達成に向けたCSR(企業の社会的責任)など多岐に渡る。

「特に記憶に残っているのは、リサーチプロジェクトという演習でした」そう改田さんは語った。この演習は、様々なケーススタディを用いて、現状分析から政策提言までを個人・グループで行う。演習内容の一つとして、HIV/AIDSの感染が懸念されている途上国の大統領に対し

て、各学生が一人から作り上げたプロジェクトを提案する。

連のプロジェクト交渉段階から実施までのステップを実践的に学ぶことができた。これらの経験は、今後の社会で働くうえで仕事をスムーズに釣り組めるようになったと語る。

「インターンシップ」
将来に向けた実務経験を積み重ねる機会として、学生一人ひとりの専攻分野や研究テーマなどに合わせて、国内外の国連・国際機関や国際NGO、または外務省・政府関係機関などでのインターンシップ実習を行い、コースでの学びを深める。

また、国連・外交コースで学んだことが直接インターンシップで生かされた。「見ず知らずの土地で不安がいっぱいありましたが、自分がディスカッション等で磨いてきた能力で、会議が円滑を進められたことで自分の能力が国際機関でも通用するという自信ができました」と改田さんは話す。

志望者に向けて

「私のインターンシップは0からのスタートでした。私の初めての仕事は、前任の広報官が担当していた業務内容を集めることでした」と改田さんは当時を振り返った。その時役に立ったのが、国連・外交コースで培った、国際機関職員と関係構築を円滑にするノウハウである。業務内外問わず、少しの時間でも交流するように心がけた結果、職員との間にコミュニケーションが生まれ、広報の仕事がスムーズになった。彼はこのインターンシップを通じて、国

「国連・外交コースは、日本にいながらグローバル環境で、国際公共分野で貢献するための素養を身に付けられるコースです。これからは少なくとも修士以上の専門性が必要となる時代。ぜひ学生の皆さんには果敢にチャレンジしてほしいです」と国連・外交統括センターの住野さんは語った。

「国連・外交コースとは」
大学院「国連・外交コース」は、大学院副専攻のコースである。

改田さんは「本プログラムは国連と外交に特化した日本でも珍しいコースです。国連・外交コースには国際社会の第一線で活躍した職員による密度の高い指導を受けられます。学習およびキャリアにおいて非常に手厚いサポート態勢が整っており、国際機関職員及び外交官を目指す皆さんは本プログラムを活用して夢をかなえてみませんか」と語りかけた。

響き渡った歌声と演奏

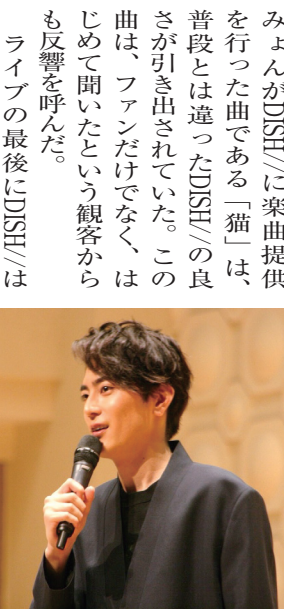
DISH//ライブ

11/2
上ヶ原での新月祭2日目、本学の中央芝生のステージは、白熱した空気に包まれていた。その中心となって観客の心を魅了したのは、人気ダンスロックバンドのDISH//だ。DISH//は、リーダーの北村匠海さんを筆頭に4人組で活動している。また、2015年からは、毎年元旦に日本武道館をにぎわしている。

そんな人気沸騰中のDISH//が今年、大学祭でライブを行ったのは本学だけであつた。そのため、観客の中には岐阜県などの遠方から訪れた人も多く見受けられた。DISH//のファン層は広く、女子高生や社会人、年配の方など様々だ。また、DISH//は男女問わず人気があり、今回のライブに訪れた男性ファンからは、「自分の憧れ」という意見が多く寄せられた。

今回のライブが盛り上がった理由は、これらだけではない。DISH//は今回のライブで、学祭ライブにも関わらず、13曲ものヒット曲を披露した。人気曲「Newフェイス」から始まり、ドラマ主題歌となった「僕たちがやりました」など、ファンの方から一般の学生まで楽しめるセットリストとなっていたのではないだろうか。また、近頃若い世代を中心に人気の歌手、あいみょんがDISH//に楽曲提供を行った曲である「猫」は、普段とは違ったDISH//の良さが引き出されていた。この曲は、ファンだけでなく、はじめて聞いたという観客からも反響を呼んだ。

ライブの最後DISH//は



ライブの最後DISH//は

サプライズに観客歓喜

間宮祥太郎トークショー

11/4
黄色い歓声に包まれ登場したのは、映画やドラマ、バラエティーにも引つ張りだこの間宮祥太郎さんだ。間宮さんは、幅広い役を演じることから「カメレオン俳優」と称され、多くの人に親しまれている。今年もトークショーのチケット販売には長蛇の列ができていた。中には3時間も並んでいる人も見かけるなど、その人気ぶりがうかがえる。

トークショーでは、俳優になったきっかけ、近況の活動からプライベートのことまで様々な話題について語った。その後、観客からの質問に答えるコーナーがあった。間宮さんは、観客とコミュニケーションを取りながら、持ち前の面白さで観客を魅了した。



ライブの最後DISH//は

器として活動の幅を広げているDISH//。DISH//のライブでは、4人のメンバーと観客とが一体となって、独自の空間を作り出している。ダンスや歌、バンドにコントなど、様々な面から楽しめること、DISH//の人気の秘訣だといえるだろう。今回のライブもまた、DISH//のバンドとしての新しさとエンターテインメント力が表れていた。さらに、楽曲の素晴らしさなど、アーティストとしての魅力が凝縮されたライブであつたとも言えるだろう。夢や希望のつまったこのグループのこれらに、期待するばかりである。



今年のノンジャンルステージ、K.G. AWARD '18

熱を感じる自由な舞台

K.G. AWARD '18

11/4
今年のノンジャンルステージ、K.G. AWARD '18 (This is us)は、多様なパフォーマンスで盛況を博した。開催は上ヶ原での新月祭初日かつ平日であつたが、多くの人が足を運んだ。

今年個人や団体の計8組が出場。3人の審査員が、それぞれエンターテインメント性とクオリティで点数をつけ、合計点数で優勝者を決めた。大きく変わったのは、開催場所だ。昨年までは中央講堂で行っていたが、今年は模擬店も多く出店している、プラザステージでの開催となった。

「模擬店もあり人が集まりやすく、また屋外ステージは気軽に立ち寄れる。そのため、たくさんの人に来ていただけた」と振り返る。

会場に笑い声が絶えることはなかった。間宮さんは、このまま何時間も続けたいとトークショーの終わりを惜しんで会場を後にした。

「カメレオン俳優」としてのこれからの活躍にも目が離せない。

ノンジャンルステージの名の通り、パフォーマンスの種類は多岐にわたつた。はじめに、ブラジルの格闘技であるカポエイラの演武が行われ、独特の音楽と動きで多くの観客を惹き付けた。その後、観客を巻き込んだマジックや、中東のダンス、ベリーダンスのサークルがその物珍しさで会場を盛り上げる。場が温まったところで、お笑いコンビが大學生に身近なお洒ネタで観客の笑いを誘つた。

演目も折り返しに入ると、まぶしい笑顔が印象的なNo.1ダンスサークルが、抜群のチームワークを披露した。次は対照的に、歌手の末永かりんさんが個人で出場。アニソンと洋楽を披露し、プロ顔負けの歌声を響かせた。最も盛り上がったステージは、その次のアイドルコピーサークル「夢喰い♡Rabbit」のステージだ。熱烈なファンが曲に合いの手を入れていると、ほかの観客も混ざりはじめ、さながらライブ会場のようになり盛り上がりがあつた。

トリにはアカペラサークルによる「POP」が披露され、美しい歌声の余韻を残しつつ、全団体のステージは終わった。

新月祭

2018

審査員の一人、本学法学部学生自治会会長の福森啓司さん(法・3)は、全てのパフォーマンスのレベルが高かつたため審査にとっても悩んだという。激戦を制し、3人による審査の結果、歌手の末永かりんさんが優勝を果たした。驚くことに、末永さんは昨年にも続いての2連覇となる。「邦

楽、洋楽関係なく披露される力強く、魅力的な歌声にすっかり圧倒されました」と福森さんは語つた。

本学では、多くの学生がさまざまな活動に挑戦をしている。彼らの熱を間近で感じることができ、年に一度の機会。来年にも期待したい。



イルミネーションLIVE

光と音の共演

イルミネーションLIVE

11/3
西宮上ヶ原キャンパスの中央芝生にて「イルミネーションLIVE」煌めく星のシンフォニーが開催された。ライトアップされた中央芝生にあるステージと観客を囲むように設置されたイルミネーションの中で、5組のゲストが、思い思いの歌を披露した。

イルミネーションLIVEは、特大ブルーメランによるMr.Children「365日」の演奏で幕を開けた。特大ブルーメランは、今回のステージのために結成したグループである。また、ステージで披露されたミュージカルも圧巻だった。その声量には、会場全体が驚かされたのではないだろうか。ステージの後半には、多くの人が耳にしたことのあるデイズ二の曲もアカペラ



イルミネーションLIVE

11月になり、本格的な冬の訪れを感じるこの季節。イルミネーションが放つ温かな光の中、思い思いのパフォーマンスが行われた。それぞれにとって新月祭への思いが光となって感じられる、そんなステージとなったのではないだろうか。

子どもたちの夢を育てる

11/10-11 せいむらりーむらんど

西宮聖和キャンパス図書館前広場で、今年も地域の子どもたちを対象とした「せいむらりーむらんど」が開催された。初日には、すでに開催を待ちわびる多くの親子連れが顔をのぞかせており、西宮聖和企画の顔ともいえる人気ぶりがうかがえた。

企画のメインは前年度と同じく、スーパースポーツ、ふりふりゲーム、たからさがし、アニマルパニック、はらぺこスローイング、バルーンアートの6つの遊びだ。また、6つのうち4つを遊べばスタンプと共に景品のお菓子をプレゼントするスタンプラリーも引き続き開催された。今年度はスタンプラリーのチャレンジコースとして、遊びで高得点を出した際に景品のお菓子を追加でプレゼントする企画が実施された。そして、2日目にはスーパーマリオとの撮影会・握手会も行われ、多くの親子連れが記念撮影を楽しむ姿が見られた。

これらの企画のうち、今年



度が一番人気は前年度に引き続きバルーンアートとなった。多くの子どもたちがバルーンを求めて列を作り、キャンパス内で道行く子どもたちの手に色とりどりのバルーンが握られ、秋のキャンパスに鮮やかな花を運んでくれた。

本企画の責任者である渋谷未夕さん(教・1)は「今回の西宮聖和キャンパス新月祭は『わくわくど・にじいろ・まつり』などの他の期間に開催されていた企画を新月祭の日程に合わせたため、今まで以上に多くのお客さんでにぎ

わった。そうした中、チャレンジコースのおかげで、小さな子どもたちだけでなく、そのお兄ちゃんやお姉ちゃんである小学生の子どもたちも遊びに夢中になってもらえたのは良かったと思う」と笑顔で

「来場者に笑顔になってもらいたい」。そんな願いを込めて名付けられた口角向上委員会、漫才コンビ学天即(がくてんそく)のステージで幕を開けた。2人とも兵庫県宝塚市出身の彼らは、地元の話題を織り交ぜた漫才で会場を沸かせた。

漫才の後は、学天即は司会に回った。その後、本学の4団体による楽器演奏や歌唱、漫才が披露され、観客投票によって1位を決定した。なかでも、最後に登場した漫才コンビ、インダスガング

「来場者に笑顔になってもらいたい」。そんな願いを込めて名付けられた口角向上委員会、漫才コンビ学天即(がくてんそく)のステージで幕を開けた。2人とも兵庫県宝塚市出身の彼らは、地元の話題を織り交ぜた漫才で会場を沸かせた。

ス(文化総部甲山落語研究会)のステージは学天即も舌を巻くほどだった。会場はその日一番の笑いに包まれ、見事1位に輝いた。学天即の奥田修二さんはイベント終了後にツイッター上で「最後のコンビにはちょっと負けていました」とコメントした。プロ

漫才の後は、学天即は司会に回った。その後、本学の4団体による楽器演奏や歌唱、漫才が披露され、観客投票によって1位を決定した。なかでも、最後に登場した漫才コンビ、インダスガング

本企画の責任者、春口桃奈さん(総政・2)は「2月頃から企画した。関学で活躍する団体を地域の人々にも知っ

当日、会場は親子連れでにぎわっていた。特にハーバリウムづくりは2日ともに終了時間前に材料がなくなってしまうほどの大人気であった。

本企画の責任者である中野美希さん(総政・2)は「子

てもらいたかった」という。その中で学天即は地元出身であり、メンバーの奥田さんはカラオケが趣味である。今回は漫才だけでなく、歌を披露する団体もあることから、企画の趣旨にぴったりだと白羽の矢が立った。また出演団体の一つである、とらんすばらんす(関西学院 Sandala Brass)がスタジオジブリ楽曲メドレーを演奏する前には、趣味であるジブリ映画の話題を披露するなど、奥田さんが持つ趣味の多彩さが光るステージとなった。

当日、会場は親子連れでにぎわっていた。特にハーバリウムづくりは2日ともに終了時間前に材料がなくなってしまうほどの大人気であった。

本企画の責任者である中野美希さん(総政・2)は「子

子どもたちとその家族、そして学生と、多くの人の笑顔があふれる企画となった「せいむらりーむらんど」。来年はどんな夢を見せてくれるのか、今から楽しみだ。

振り返った。子どもたちと

てもらいたかった」という。その中で学天即は地元出身であり、メンバーの奥田さんはカラオケが趣味である。今回は漫才だけでなく、歌を披露する団体もあることから、企画の趣旨にぴったりだと白羽の矢が立った。また出演団体の一つである、とらんすばらんす(関西学院 Sandala Brass)がスタジオジブリ楽曲メドレーを演奏する前には、趣味であるジブリ映画の話題を披露するなど、奥田さんが持つ趣味の多彩さが光るステージとなった。

当日、会場は親子連れでにぎわっていた。特にハーバリウムづくりは2日ともに終了時間前に材料がなくなってしまうほどの大人気であった。

本企画の責任者である中野美希さん(総政・2)は「子

本企画の責任者である中野美希さん(総政・2)は「子

神戸三田

西宮上ヶ原

西宮聖和

11/10・11
11/1~4
10/20・21

親子の楽しい遊び場に

10/20-21 さんだはちやめちやらんんど

「さんだはちやめちやらんんど」は主に小学校低学年以下を対象とした企画だ。昨年まで神戸三田キャンパスでは4つの実行委企画が開催されていた。今年はその中の2つを組み合わせて1つの企画とした。それが「さんだはちやめちやらんんど」である。

本企画は、7つの遊びと2つの体験型教室からなっている。参加者は受付でスタンプラリーカードを受け取り、それぞれのコーナーを回ってスタンプを集める。6つ以上スタンプを集めると、景品がもらえるくじに挑戦できるというものだ。正門横芝生でバルーンアート、スーパースポーツ、ヨーヨーつり、わなげ、ストラックアウト、巨大バズル、宝探しの7つの遊びが、II号館で体験型教室のハーバリウムとけしごむはんこが楽しめた。なかでも、ハーバリウムは今年が初めての実施である。ドライフラワーやプリザーブドフラワーを専用の液とともに瓶詰めにした植物標本で、最近はやりのインテリアとしても親しまれている。

当日、会場は親子連れでにぎわっていた。特にハーバリウムづくりは2日ともに終了時間前に材料がなくなってしまうほどの大人気であった。

本企画の責任者である中野美希さん(総政・2)は「子

本企画の責任者である中野美希さん(総政・2)は「子

子どもたちに広い場所でのびとびと遊んでもらうために、正門横芝生で行いました。ハーバリウムは今年初めての企画だったので不安もあつたけれどやってよかったです。来年以降も集客効果の望める、次につながる企画になりました」と笑顔で話した。また、来年に向けては「毎年新月祭のメインとなる西宮上ヶ原キャン

当日、会場は親子連れでにぎわっていた。特にハーバリウムづくりは2日ともに終了時間前に材料がなくなってしまうほどの大人気であった。

本企画の責任者である中野美希さん(総政・2)は「子

つながり感じるステージ

HEARTIM THEATER

11/10

開かれたキャンパスならではのステージとなった。

そして、今年も新月祭と同じ日に開催された国際交流イベント「わくわくど・にじいろ・まつり」からも、3団体の参加があった。朝鮮半島に古くから伝わる太鼓のチャングや、アフリカ太鼓のジェンベ、ドゥンドゥンを使用した演奏も行われた。中には日本語の歌もあり、観客は手拍子を打って声援を送っていた。

企画の責任者である水谷梨紗子さん(教・2)は「この企画によって、地域や人との輪や和を大切にしたいという思いがあった。子どもたちも多く見に来てくれて、楽しんでくれた。聖和らしいイベントになったと思う」と話していた。出演者や観客にとっても、地域や社会とのつながりを感じることであったステージとなったはずである。



本企画の責任者である中野美希さん(総政・2)は「子



教授の背中 山田孝子

山田教授は、シミュレーションや確率モデル、データ分析などを専門とした研究をしている。5年ほど前にツイッターで流行した「あなた知らない裏の顔VOL.2」の制作に携わった。これは、質問に回答し、自身の内面を診断するウェブサイトである。実は、診断目的で作ったものではない。ツイッターによってどのように拡散されるのかという、メディア接触を調べたものだった。山田教授は、このウェブサイトの診断結果を出すために、データを用いて分析を行った。その際に、首都圏1万5千人のアンケートからなる生活者総合調査を用いている。このビッグデータを分析し、裏の顔の制作をしたことが契機となり、今の研究に繋がっている。

より必要な人に、より必要な情報を

利用、発信しているかで生活価値観が見えてくるという。言い換えれば、生活価値観はメディアの用途によって表れるということだ。山田教授はこの研究を、データで裏付け、科学的に証明したいと語る。「今後、広告のデジタル化が著しくなる。価値観とメディア接触や、人工知能や機械学習の技術を用い、必要としている人により必要な情報をリアルタイムで提供する。このことを実現可能へ導きたい」とも話した。昨今は、言葉のコミュニケーションから映像のコミュニケーションへと移行しつつある。ドローン、VRやARなどの新しいテクノロジーを利用して、テクノロジーをどうメディアと繋げていくか、発信していくかにも注目しているそうだ。

Table with 2 columns: Year and Position. Includes: 1995年 東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程情報科学専攻 修了, 1995年 山形大学助教授, 2001年 電気通信大学大学院情報システム学研究科助教授, 2007年 関西学院大学総合政策学部メディア情報学科教授

「カレーの市民アルバ」の店長である松尾さんは、親戚が石川県金沢市で金沢カレーの店を営んでいたため、甲東園でこの店を始めることになった。毎日店に立つことで、全国各地からやってきた学生と友好を深められることを楽しみとしているという。仲良くなった学生の内定祝いなどをすることもあるそうだ。

訂正して、おわびします 第840号3面「おすすめのお店探し隊！」に掲載した店名が誤っていました。正しくは「三代目 麺家 あくた川」です。確認が不足しており、点検でも見逃しました。



関学愛にあふれる装い

☆基本情報☆ 営業時間：11:00~20:00 住所：西宮市松籟荘7-20 TEL：0798-51-0827 定休日：不定休



『キノの旅-The Beautiful World-』 時雨沢 恵一



RPGゲームは、サブストーリーに没頭しすぎてメインストーリーが進まない。そんな人に是非お勧めしたいのがこのシリーズだ。旅人の少女キノと喋る二輪車のエルメスが、個性的な国々を三日だけ訪れるという物語。既に21巻まで刊行された本作の造形は、ライトノベルの常識を覆すものだ。まず、この作品には甘さどころか甘酸っぱさすらほとんどない。少なくとも、キノの

周りにそんな鮮やかさはない。あるのは10代の少女が銃をもって旅をするという現実感に付きまとう、生臭く、無機質な表現もある。グロテスクなグロテスクさよりも、灰色の臭いが、紙に染み込んだインクの一滴滴から漂ってくるのだ。キノは、王道のダークヒーローといえるかもしれない。綺麗ごとを決して口にせず、必要な殺生にはためらいがなく、しかし非情なわけでもない。だからといって機械的なわけではなく、エルメスと漫才のようなやりとりをしたかと思えば、次のページでは人を殺している。そして何より、

生きるということに正直だ。しかしそんな典型的な人物像でも、10代の少女が持っていることはかなり異例ではないだろうか。そしてこの物語の最大の魅力は、緻密さだ。この旅に際して、メインストーリーはほとんど進まない。この旅には、魔王を倒すとか、星が描かれたオレンジ色のボールを七つ集めるとか、そんなゴールはない。もちろん、安住の地を見つかることも目的ではない。そのため、サブストーリーがずつと続く。キノが持つ二丁の拳銃の秘密、キノの生い立ち、キノが父の合戦をいっしょに手放さない理由、キノが出会った人々のその後など。物語が前に進まない分、

旅先でのあらゆる出来事が綿密に練られて、キノとその周囲の世界がきめ細かくなっていくのだ。そして何より、キノが訪れる国々の特色が非常に際立っている。長袖が憲法違反の国や、ミサイルで世界征服をもくろむ国、国土そのものがキャタピラで動く国など様々で、作者の発想力に驚かされる。しかしそれ以上に、思わず笑ってしまう風習にクールなキノが付き合っているとこころは必見だ。サブキャラクターたちの際立つ個性、話ごとに大きく変わる地の文など、語るべき魅力は尽きない。超へビー級ライトノベルの一撃を、ぜひ味わってほしい。

おすすめのお店探し隊！ vol.19. 「カレーの市民アルバ」

1996年から阪急甲東園駅前前を構えている「カレーの市民アルバ」。この店の看板メニューが、ステンレス皿にご飯と特製の濃厚なルー、千切りキャベツが盛り付けられた珍しい金沢カレー。ステンレス皿にこれでもかというほど盛りだくさんなルーが、トッピングが隠れて見えなくなってしまう量のルーがかかった、ボリュームたっぷりの一品となっている。「カレーの市民アルバ」の店長である松尾さんは、親戚が石川県金沢市で金沢カレーの店を営んでいたため、甲東園でこの店を始めることになった。毎日店に立つことで、全国各地からやってきた学生と友好を深められることを楽しみとしているという。仲良くなった学生の内定祝いなどをすることもあるそうだ。

松尾さんは関学学生に向けてこのようなメッセージを残した。「みなさんが生きていくのはとても困難な社会だ。決して楽な学生生活ではないだろうと思う。苦しい時こそ困難な人生を切り開いてほしい」。寡黙だが人情に厚い、多くの経験をしてきたであろう松尾さんの口から語られるこの言葉には、胸を揺さぶられるものがある。これから寒い季節が来る。スパイスの効いたボリュームのあるカレーで体を温めてみてはどうだろうか。人情に厚く温かい店長に会いに行くのもまた、心が温まるだろう。



ボリュームたっぷりのチキンカツカレー



K.G. studio

今回のK.G.studioは部室だよりとK.G. PEOPLEです。部室だよりでは文化総部茶道部渉外の石川里穂さんに、K.G. PEOPLEでは学生サバイバルゲーマーの川原啓さんに話を聞きました。

K.G. PEOPLE

#32. 学生サバイバルゲーマー

川原 啓さん (法・4)



サバイバルゲーム(以下、サバゲー)をご存じだろうか。空気の圧力でBB弾を発射する、エアガンを使った大人のスポーツである。専用のフィールド内で行われ、弾が一発でも当たれば退場というシビアなルールだが、愛好家は老若男女を問わず数多い。今回は大学入学と同時にサバ

ゲーを始めた、学生サバゲーマーの川原さん取材した。川原さんはサバゲーマーの魅力として、一人ひとり違った楽しみ方があることを挙げる。「もちろん、勝ち負けを競う人もいるが、銃器や装備のカッコよさを競うこともできる。小さいときにやった、ごっこ遊びの延長のようなもの」と、川原さんは語る。

どうしてもサバゲーというと、現実の兵士のような装備を整えなければいけないような、固くてハードルの高いイメージがある。しかし、川原さん自身は「自分がカッコいいと思うスタイル」を追い求め、楽しむことを第一にゲームに参加している。実際、フィールドにはジャージ姿で参加している人もいるほど、

もある立派な茶室です。今日来るときも、庭園の紅葉が綺麗で、思わず見とれてしまいました(笑)。石・ほかの大学だと、共用和室で練習したりするらしいのですが、閑学では茶室が独立した建物としてあります。そのため、茶室に来たら誰か必ずいるので、和気あいあいとした雰囲気です。新・集中して練習できる環境なのはいいですね。ところで、石川さんはいつから茶道をされているのですか？

「私は中学から続けています。ですが、部員の半分は大学からです。始めた理由も日本文化に触れたかったとか、きちんとした所作を学びたかったとか様々です。新・なるほど。茶道は日本文化の代表の一つですからね。最後に、関学生へメッセージをお願いします。石・うちは最低週2コマの練習ですが、やる気次第でもっと練習して茶道を極められます。なんとと言っても道具や場所、教えてくださる方々などの環境がとても充実しています。茶会も定期的にあるため、何もしない時期はないです。充実した日々を送れること間違いなしです！(A・M)

文化総部茶道部

部員数：22名
創部年：1947年
活動日：火～金のチャペルアワーから5限まで
部室：法学部棟裏の茶室、恵風庵
HP：<https://sado-kwansei.jimdo.com/>
Twitter：@kgsado
Instagram：kgsado

部室だより

vol.23

文化総部茶道部

文化総部茶道部渉外の石川里穂さん(法・3)にお話を伺いました。

新聞総部(以下、新)・まず、活動内容を教えてください。石川さん(以下、石)・毎週火曜日から金曜日の、チャペルアワーから5限目まで茶室を開けています。部員は各自都合のいい時間で、お点前の練習をしています。新・各自の都合に合わせてくれるのはいいですね。茶会は頻繁に開かれるのですか？石・春、学祭期間、秋に開きます。このうち、秋は学外での開催です。今年は時期がずれて冬になりましたが、西宮神社で開く予定です。新・あの西宮神社で開かれるのですか！茶道の先生はどの

くらいのペースでお越しにされるのですか？石・毎月2回ほど、奈良からお越しにたいしています。指導以外にも、茶会の時はいいお道具をお借りしています。新・ほかのお道具や、和服もお借りするのですか？石・いえ、大抵の道具は部が所有しているのですが、和服は部員が個人で購入したり、家族から譲り受けたりするケースが多いです。新・部が所持している道具も多いのですか。部の雰囲気はどのような感じですか？石・アットホームな雰囲気です。茶室が独立しているの、ちょっとした時でも立ち寄りやすいのが大きいです。新・かなり大きく、日本庭園

自由な世界だ。サバゲーは、初心者が一人でも気軽に参加できるフィールドが多い。川原さんも「多くのゲームフィールドでは、エアガンのレンタルも行っている。運動神経の良し悪しは関係ないし、好きな格好で始めてくれれば」と、敷居の低さをアピールした。川原さん自身は、流行っていたシューティングゲームの影響で、銃器への興味はあったそうだ。銃器に触れてみたい、撃つてみたいと思っていたところ、友人からの誘いがあり、この世界へと入った。最初は手頃なエアガンを買って参加したところ、前述した魅力に取りつかれて、はまってしまったという。川原さんは現在、月に1、



化の代表の一つですからね。最後に、関学生へメッセージをお願いします。石・うちは最低週2コマの練習ですが、やる気次第でもっと練習して茶道を極められます。なんとと言っても道具や場所、教えてくださる方々などの環境がとても充実しています。茶会も定期的にあるため、何もしない時期はないです。充実した日々を送れること間違いなしです！(A・M)

文芸部 読み切り小説

『星空の告白』

登坂ニワト

ペダルを漕ぐごとに、凍つくような風が顔面に突き刺さる。冬の朝は、毎日のように人々の英気をそぎ落とす。平坦な道のりからゆるやかな登り坂にさしかかったので、ペダルを回す足を強める。

徐々に体の芯が熱を帯びてきて、呼吸も荒くなる。学校に着いた頃には、制服の下を汗が這っている感触がした。自転車を置き場に自分のものを置く。

手袋を脱ぐと、手汗が外気に晒されて冷え、やがて消えた。ああ、そういえば、水筒家に忘れてきたんだっけ。そのことを思い出して、食堂前に設置されている自動販売機に行くと、先客がいた。偶然なことに知り合っていた。

「おはよう、タカさん」
挨拶を返す。「こなっちゃん」とかいう愛称があるのだが、俺は「タカさん」という呼び方を続けている。本人は自身の呼称に頓着せず、俺がこの呼び方を始めた時も、特に何も言われなかった。

俺はあたたかいカフェオレのボタンを押す。
「今日は一段と冷えるね」タカさんが白い息を吐きながら言う。
「そうだね。路面に凍ってるところがあったよ」
「それはやだなあ。子供の頃、氷が張ってたところで滑って転んで額から血でたことあったから」

俺とタカさんは地球科学部に所属していて、これくらいの雑談をするくらい仲である。地球科学部とは要するに天文学部みたいなもので、字の通り天体を観測したり、文化祭ではプラネタリウムの上映会をしたりした。
「……今日、夜間観測なんだよ」
タカさんは、話題を今日の夜間観測会に切り替えた。今夜、学校に泊まって大規模な流星群を観測するのだ。
「大丈夫かなあ。ちゃんと伝えられるかなあ」
彼女は凍ったため息にさせて内心の不安を漏らした。
「俺はこの手のことに関してはうぶだから、迂闊なことはいわないよ」

彼女はムツとして、
「私だけならいいけど……私以外の女の子にそんな無責任なこと言ったら、仲が進展しないよ」
「はいはい。まあ、安心しろ。ヒロならほぼ確実にオーケーもらせるだろうから」
「そうだといんだけど……」

タカさんの不安はまだ解消されないようだった。彼女は夜間観測会で好きな人に告白をするらしく、その人の親友である俺に恋愛相談を持ち掛けてきたのだ。他人の恋愛話は、聞いていてとても面白いが、気を回すのはちょっとばかり疲れる。
俺は話を半ば無理やりに打ち切って、教室へと向かう。

「今夜は月がきれい」だった。

2018年11月6日
学生活動支援機構連絡会(部連)

助成金制度に関する寄稿の文案(新聞編集部からの取材依頼)

助成金について貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。
みなさまから寄せられたご意見を、今後の助成金に関する施策の参考にしたいと思います。しかしながら、学生納付金を基とする財源や人員には、限りがあります。限られたお金や人員の中で、各団体に助成金を配分していますので、すべての団体・すべての要望を満たすことは難しいことをご理解いただくと幸いです。

本学スポーツ・文化課より受け取った回答文

配分してもらえない団体に所属している学生は、全体の半数以下である。しかし、その半数以下の我々は「関西学院大学」の名を背負い、活動しているのである。財政が改善されれば選択肢も増え、様々な形で本学の名前を世に知らしめられるだろう。お互いに切っても切れない関係である以上、今後の歩み寄りに期待したい。

大学側の回答を受け取る

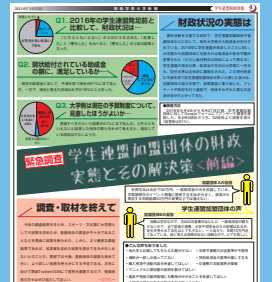
前号の調査結果に対し、本学スポーツ・文化課からは左記のコメントを受け取った。大学側の某職員によると、コメントを作成中の会議では「助成金をもらえてるだけありがたいと思え」といったニュアンスの意見も出たという。

たしかに、助成金を

前編のおさらい

課外活動を支援する目的で、学生連盟加盟団体や登録団体などに対して、毎年大学側から助成金が交付されている。2016年の学生連盟発足以降、助成金の割合や額が変更され、交付水準は全体的に厳格化された。この現行制度に不満を持つ団体が多いと感じた我々は、学生連盟加盟団体の協力を得て、実態調査に乗り出した。

前編では、学生連盟加盟団体に対してアンケート調査を実施し、客観的なデータで不満があることを明らかにした。今回の後編では、大学側から調査結果への回答があったことを踏まえ、今後大学側と加盟団体がこの問題にどう向き合っていくべきか考えていきたい。



詳しくは840号4面をチェック

緊急調査

学生連盟加盟団体の財政 実態とその解決策<後編>

調査・取材を振り返って

2回に渡り取り上げてきたこの財政特集だが、やはりすべての問題を解決する魔法の一手は存在しない。財政的に苦しい団体は多く、部員にまでその負担が及んでしまっている例も見受けられた。中には大学側の姿勢を批判する団体もあり、彼らの主張にはそれなりの説得力があった。現状では部の存続すら危うい団体もある。

一方で、大学側にも事情があることは理解しなければならない。当然ながら、部活動の団体に分配できる予算は限られている。学生の望むことを全てかなえることはできないということも、当たり前のことだ。お互いに改善できる点もいくつかはあるだろう。しかし、それらをすべて改善したとしても、不満は残ってしまうのではないだろうか。

そうであれば我々学生がすべきことは、工夫や転換である。もちろん日常の活動で結果を出すことや、大学側との交渉なども欠かせないだろう。しかしそれ以上に、部や活動の新しい在り方を探り、環境の変化に対応することもまた、重要ではないか。

今回で一旦財政特集は終わるが、各部にはまだまだ、それぞれに異なる課題が残っているだろう。この特集が、少しでも財政問題の解決に役立てば幸いだ。

THANK YOU!



【大学側に求められる姿勢】

- 申請の簡略化と明確化
まず、交通費などの煩雑な申請の簡略化である。また、助成金の申告方法や適応範囲について、職員によって回答が異なる場合がある。申請方法の明確化が必要だろう。
- 使用用途の大きい申請の優遇
団体によっては遠征関連の支出や一部機材など、活動に必要な不可欠でありながら、負担できない額の支出が存在する。そのような用途には個別な優遇が必要だろう。前編の証言の一つにあるような、1人年10万円の出費に学生が耐えられるか、今一度考慮すべきだ。

今後求められる姿勢

【加盟団体側に求められる姿勢】

- 各種助成金の申請
特別助成金は申請基準が厳しいとの声がある。一方、6月中旬に資料が配布される奨励助成金は、内容の申告を比較的自由に記述できる。内容によっては少なくない補助が下りるため、どんな内容でも報告する価値はあるはずだ。
- 経理の見直し
助成金が下りていない支出についても、大学側との協議によっては使用方法や申請の変更により、助成金が認められる場合がある。その他細かな支出についても、まずはスポーツ・文化課に確認を取るべきだろう。

関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

● 取得できる車種 ●

大型車・中型車・準中型車・普通車(AT/MT)・
大型二輪車(AT/MT)・普通二輪車(AT/MT)

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。



SANDA AUTOMOBIL SCHOOL
SAS
SINCE 1963

兵庫県公安委員会指定

三田自動車学院

三田市志手原1147-1 TEL:079-562-2995
E-mail:sas.1963@poppy.ocn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com



三田自動車学院携帯用HP QRコード